

地区の概要

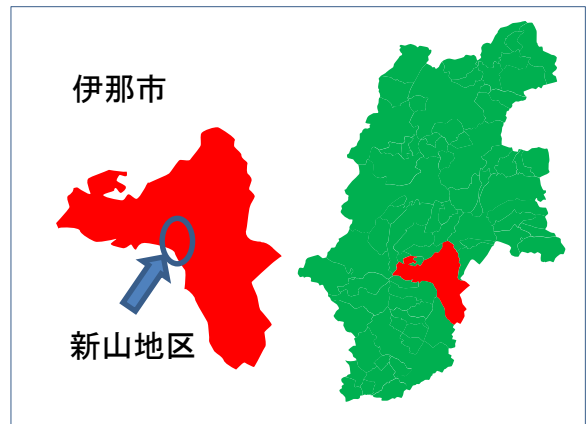
伊那市新山地区は、伊那市域のほぼ中央に位置する、三方を山に囲まれた里山で、標高約600~1,000mの丘陵地で、水と緑に囲まれた自然の中に広がる地区です。

地区には、「上新山（かみにいやま）区」「北新（ほくしん）区」という2つの行政区があります。主な施設として、新山集落センター、新山小学校、新山保育園、新山診療所などがあります。また、希少なハッチョウトンボの生息地として知られる「トンボの楽園」をはじめ、自然環境に優れ、またこの環境を維持する取り組みが長期にわたり行われてきました。

小規模特認校に認定されている新山小学校と、新山保育園は、地区の中心となっています。

行政区名	世帯数	人口
上新山区	134世帯	361人
北新区	107世帯	320人
地区全体	241世帯	681人

(H28.10住基)



地区の取組



新山地区の住民が結成した「新山定住促進協議会」は、前身の「新山の保育園・小学校を考える会」が行っていた、新山保育園、新山小学校の応援をはじめ、移住希望者等のサポート、土地の情報収集や紹介、定住促進への取り組みなど、住民がより安心して暮らせるような環境形成に取り組んでいます。

新山地区の行事である「新山まつり」「新山大運動会」などへは、地区外の方も気軽に参加できます。また、近くの高烏谷山、三界山への山登り、トンボの楽園観察会、軽トラック市や、お母さんたちによる「新（にい）ママクラブ」などの様々な活動があります。



平成27年度に、長野県集落“再熱”モデル地域支援事業により、地区ビジョンを策定しました。現在、上伊那農業高校畜産班と連携しての鹿肉を活用した特産品づくり、地区内にある伊那市「田舎暮らしモデルハウス」の活用、魅力発信への取り組みなどが進められています。

移住者から一言



東京都から移住してきて、現在は新山地区を拠点に林業に従事しています。子どもが通園している新山保育園では、食農体験で収穫したとれたて野菜に大興奮で、大自然の中でたくましく育っています。近隣の方々は、私たちの子どものことを気にかけて、地域の行事等にも誘ってくれます。新山地区の皆さんは「とにかく人が良い」と感じています。
(松岡さん、平成27年に移住)



豊かな自然と新山地区のロケーションが気に入って、愛知県から移住し、欧州郷土料理と雑貨の店「le petit marche（プチマルシェ）」をオープンしました。地域の方や市内の飲食店と、手作りのソーセージの食べ比べやマスカミ、音楽ライブなどで子どもから大人まで楽しめるイベントを毎年開催しています。
(大竹さん、平成21年に移住)



妻の故郷に近いこともあり、千葉県より移住しました。現在3枚の畑で野菜を作り、道の駅と販売契約を結び、出荷しています。野菜の種類は、モロッコインゲン、キュウリ、ナス、シシトウなど10種類以上にのぼります。澄んだ空気と静寂や、満天の星空、冬一面の白銀の世界、縁側での晩酌などは、都市部にはめぐり合うことのない感動です。
(曾根さん、平成14年に移住)

支援者から一言



新山定住促進協議会は、自然豊かな新山地区の住民が集まり、新山保育園、新山小学校の応援、田舎暮らしサポートや魅力発信など、様々な活動を行っています。



もっと詳しく